

長野県における「流域治水」の取組 治水ONE NAGANO



「長野県流域治水推進計画」における“留める”取組(農政以外)・普及啓発活動

○雨水貯留タンクの設置

雨水貯留の取組を民間事業者や県民に促す目的も兼ねて、令和元年東日本台風及び令和2年7月豪雨で大きな水害が発生した「千曲川」「天竜川」「木曾川」流域内の439の県有施設において、設置を進めています。(令和4年度末取組状況：約180基)



○市町村における雨水貯留浸透施設の設置

行政が一体となって流域治水の取組を進めており、市町村所有の施設においても、雨水貯留浸透施設の設置を進めています。



○流域治水キャラバン

「長野県流域治水推進計画」の計画的な推進を図るため、市町村に主体となって実施いただきたい取組について、課題解決に向けた意見交換等を実施しています。



○普及啓発活動

流域治水は「あらゆる関係者」が協働して取り組む必要があることから、民間事業者や県民の皆様に流域治水の概念を知っていただくため、様々な普及啓発活動を実施しています。

■TVコマーシャル・ミニ動画の放送

令和3年度から、期間限定で流域治水に関するTVコマーシャルを放送しています。また、YouTubeでは、流域治水を紹介するミニ動画をアップしています。



■シンポジウム(令和3年10月22日)の開催
令和元年東日本台風から約2年が経過したことを踏まえ、災害復旧・復興の状況のご紹介や、流域治水をどのように取り組んでいくべきか議論するパネルディスカッションを実施しました。



■流域治水グッズ(バッジ・ステッカー等)の展開

【問合せ先】
長野県建設部河川課
〒380-8570 長野県長野市大字南長野 692-2
TEL:026-235-7310



農地・農業用施設を活用した“留める”取組

○ため池雨水貯留の取組

営農に支障が少ない低水位管理など具体的な取組手法や取組による効果など取りまとめた「ため池を活用した雨水貯留の取組に係る指針」を令和4年3月に策定し、本指針を用いた説明会等を行いました。(令和4年度末取組状況：328箇所)
※空き容量約570万m³



○水田雨水貯留の取組

県内での事例が無い「田んぼダム」の取組について、他県の優良事例を参考に、試験的に圃場に排水柵やせき板などを設置し、降雨時の湛水状況や必要な管理など検証しました。(長野市、池田町)



【問合せ先】
長野県農政部農地整備課
〒380-8570 長野県長野市大字南長野 692-2
TEL:026-235-7239

「逃げ遅れゼロ」に向けた取組

○信州防災アプリ

災害からの「逃げ遅れ」を出さないためには、住民が「自らの命は自らが守る」意識をもって、自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援するという住民主体の防災意識の高い社会を、一日も早く構築する必要があります。「マイ・タイムライン」の作成や、スマートフォンの位置情報に応じて避難情報をお知らせする機能を有する「信州防災アプリ」を配信中ですので、ぜひご活用ください。



【問合せ先】
長野県危機管理部危機管理防災課
〒380-8570 長野県長野市大字南長野 692-2
TEL:026-235-7184



マイ・タイムライン作成



避難情報をプッシュ通知



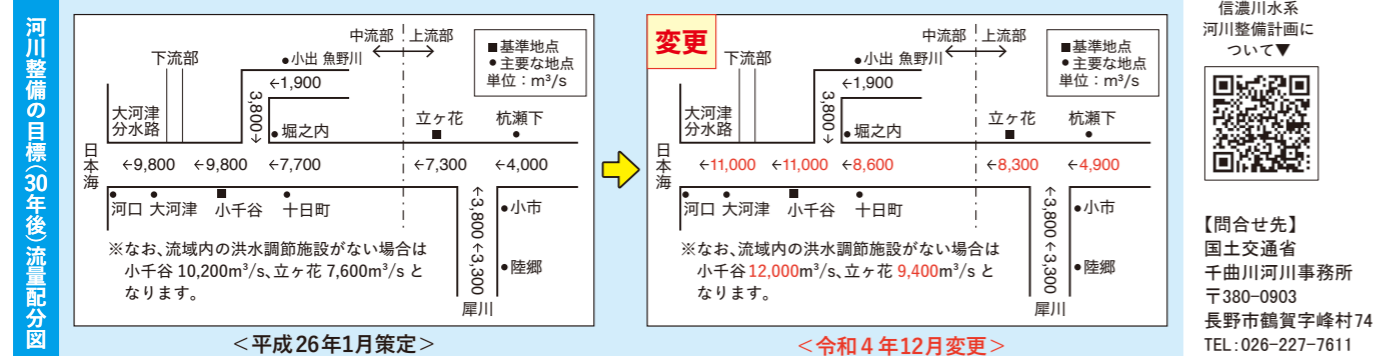
「信濃川水系河川整備計画」の変更 [国土交通省 北陸地方整備局]

<①令和元年10月東日本台風洪水を踏まえた見直し>

- ◆現行の河川整備計画目標流量を大きく上回る洪水の発生を踏まえ、目標流量を見直し。将来の気候変動の影響による降水量の増大等を踏まえたものとします。
- ◆河道掘削等の河道改修の推進と併せ、洪水調節機能の向上を図る対策の実施や調査・検討を行い、必要な対策を実施。

<②流域治水を踏まえ治水対策案を見直し>

- ◆ハード対策のみならずソフト対策や流域対策など、あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」へ転換。



令和5年3月作成

千曲川流域治水サミット

日時

令和5年1月30日(月)
14時~15時30分

会場

長野市生涯学習センター4階
大学習室2.3 (WEB併用)



◆主催：国土交通省 千曲川河川事務所 長野県 建設部

<参加機関>

- 【長野県内】長野市、松本市、上田市、須坂市、小諸市、中野市、大町市、飯山市、塩尻市、佐久市、千曲市、東御市、安曇野市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町、長和町、青木村、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村、池田町、松川村、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村、栄村
- 【新潟県内】新潟市、長岡市、三条市、小千谷市、加茂市、十日町市、見附市、燕市、五泉市、魚沼市、南魚沼市、弥彦村、津南町
- 【国・県】国土交通省北陸地方整備局(河川部、信濃川河川事務所、信濃川下流河川事務所、千曲川河川事務所)、長野県(建設部河川課)、新潟県(土木部河川管理課)等



流域治水について▶

千曲川流域治水サミット

気候変動による水害リスクの増大に備え、流域全体のあらゆる関係者が協働して、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」へ転換。「日本一の大河 しなのがわ」の上流域(長野県)と下流域(新潟県)双方の交流の場として「千曲川流域治水サミット」が開催され、流域治水の推進に向け、積極的な意見交換がおこなわれました。

開会 長野県知事挨拶(ビデオメッセージ)



長野県知事 阿部 守一

本日は大変お忙しい中、「千曲川流域治水サミット」に流域内の市町村長にお集まりいただき、特に今回は、新潟県側からも市町村長にご参加いただいておりますこと、大変ありがたく思っております。令和元年東日本台風災害について、被災された地域の皆様には、改めてお見舞いを申し上げますとともに、市町村長の皆様には第一線で陣頭指揮を執っていたいただき、住民の命と財産を守るために御尽力いただきましたことを心から感謝を申し上げます。今回の「千曲川流域治水サミット」は、流域治水協議会の全体協議会にて、上下流一体で課題や取組を共有すべきではないかという御意見を踏まえ、国土交通省と長野県とで開催をさせていただくものです。是非この機会に様々な取組事例や地域課題を共有し、流域全体で最適な治水のあり方をともに考えていくことができればと思います。



司会
長野県河川課長
川上 学



コーディネーター
千曲川河川事務所長
中根 達人

第1部 流域治水の実践事例について

長野市長 荻原健司氏

「ため池を活用した流域治水の取組について」

長野市では令和元年東日本台風により被災した浅川の下流の排水機場の能力不足分を補完する目的で、既存ため池を活用し、「低水位管理」を実施しています。令和3年に試行的に始め、現在17カ所にて協力をいただいています。また平成14年から雨水貯留施設設置補助金制度を設け、現在までに4000基余りの施設設置に御協力をいただいています。更に令和4年度からは雨水浸透施設設置補助金制度を開始し、流出抑制の取組を拡充し、市民の水害に対する防災意識の醸成を促すためにも、積極的に普及活動を実施していきます。



中野市長 湯本隆英氏

「雨水排水・雨水貯留の取組について」

雨水貯留施設雨水タンクを設置または不用になった浄化槽を雨水貯留施設に改造する場合、その購入及び改造費用に助成金を交付しています。また、市街地から雨水の流入抑制及び住宅等への浸水対策のため雨水浸透櫛の設置や水路改修時に浸水用側溝を敷設しています。

飯山市長 江沢岸生氏

「公共施設への雨水貯留タンク設置・雨水排水ポンプ場の機能強化等の取組について」

飯山市では市民の皆さんへの流域治水のPRを含め、公共施設への雨水貯留タンクの設置を行いました。また令和元年東日本台風の際、皿川の堤防決壊により市街地が浸水するという大規模な災害に見舞われたことを踏まえ雨水排水ポンプ場の耐水化工事・機能強化工事を実施しました。更には、市街地における大規模な雨水貯留ができる施設を設置する必要があることから、都市公園等の公共施設の敷地を利用した貯留施設の設置についても検討を進めています。

第2部 話題提供

三条市長 滝沢亮氏「水害の記憶 つなぐ記録」

三条市では、平成26年度国土交通省と共同で、信濃川の河川敷に三条防災ステーションを整備しました。水防の資機材や災害対策車両等を配備、併設して水防学習館や交流広場があり、平時は防災教育そして憩いの場として活用されています。また、この辺りは「MIZBERING SANJO」の愛称で親しまれております。水防学習館の目の前の交流広場では様々な防災イベントを行うなどの水防活動・防災活動への意識啓発を行っております。また、憩いの場として、スケートボードのパーク、キャンプ場としても非常に人気で週末は大変賑わっています。次に水害対策浸水検知センサーは、安価な費用で人的な負担を減らす目的で、今年度導入いたしました。冠水または浸水は職員がパトロールして発見していましたが、排水路にセンサーを設置し、水位の上昇を的確に把握して、より適切なタイミングでパトロール出動の判断を可能としています。



長岡市長 磯田達伸氏「防災に関する長岡市の取組」

長岡市の下流域に位置する「大河津分水路」の大改修が行われることによって、下流域については、安全性というのは、担保されていくと思っておりますが、分水の上流では、いざとなると水位が上がって危険な状況になるという認識は持っています。令和元年東日本台風では、堤防高まで1mを切るような状況もあり、一部漏水等もありました。また、中小河川(浄土川)では、「バックウォーター現象」により市街地が浸水し、異常気象によって今まで考えられなかった状況となっていると認識しています。その中で、早い段階で市独自で「信濃川早期警戒情報」を出して、高台あるいは上階への避難ということを皆さんに意識して行動してもらうこと、それを長岡方式の避難と言っています。避難の時間を稼ぐ、あるいは対策ができるような時間が十分とれるよう対策をとっていく必要があると考えております。



第3部 流域治水を一步進めるためのアイデア

佐久市長 柳田清二氏

「浚渫土砂の処理事業について」

令和元年東日本台風を経験してこの災害のテーマというのは、「ビルドバックベター」=改良復旧にあると考えています。災害復旧というのは原状復旧が原則ですが、地域安全を確保するためにはかなり踏み込んだ改良復旧というものを行っていただきました。佐久市としては、かねてより大きな課題となっていた河川の浚渫土砂の処理について取組を進めてきました。土砂の処分場を市で建設することにより、浚渫のスピードと規模を大きくしてもらいたいをお願いをし、長野県と佐久市で協定を結び、この事業をスタートさせました。第1期事業整備効果ということでこの20万m³の土砂処分について、運搬費用・土砂処分費が削減され、浚渫推進を早く進めることができました。第2期としても、40万m³の浚渫と処分場を計画しております。



中野市長 湯本隆英氏

「中野市総合浸水対策計画について」

中野市では、令和元年東日本台風などにより千曲川の支流である篠井川の流域において内水氾濫による被害が頻発しています。中野市におきましても流域治水の取組として、特に水害が多発している篠井川流域について治水安全度の向上及び浸水被害の軽減のため、「中野市総合浸水対策計画案」を策定しました。現在、市民の皆様へパブリックコメントを募集し、いただいた御意見の概要と市の考え方を公表した後、本計画を進めていくこととしています。本計画につきましては、国及び県が推進する流域治水の取組と連携し、水害に強い安全安心な地域づくりに寄与するものと考えております。



長野市長 荻原健司氏

「降雨・水位予測精度向上の研究」

長野市では、雨による河川水路などの水位予測技術の精度向上は、防災減災の一助になると考えており、長野県、東京大学、JAXA及び長野市共同で、令和3年1月から洪水予測システムの精度向上について研究を進めております。



まとめ

北陸地方整備局河川部長 安達孝実氏

「多くの方々に「治水の大切さ」を伝えたい」

「治水 ONE_NAGANO 宣言」ですが、サブタイトル「みんなで取り組む流域治水」ということで住民の皆様には防災意識の向上が非常に大事なことだというのがわかる本当に意義ある宣言だと思っています。

終わりに、流域治水を進めるにあたり、多くの方々に、治水の大切さ、水害リスクなどをしっかりお伝えすることが大切だと思っています。そのために、治水に携わる多くの方々と連携し、今後ともいろんな形でその大切さをお伝えできればと思っています。



「千曲川流域治水サミット」のまとめ

- ①流域全体の治水安全度の向上を目指す
- ②「流域治水」の取組の更なる深化の重要性を再確認
- ③積極的な情報発信を行い、治水を「わがこと」に
- ④雨水貯留や住民避難など、できる水災害対策を一步ずつ
- ⑤“流域市町村長の顔の見える関係”を大切に

